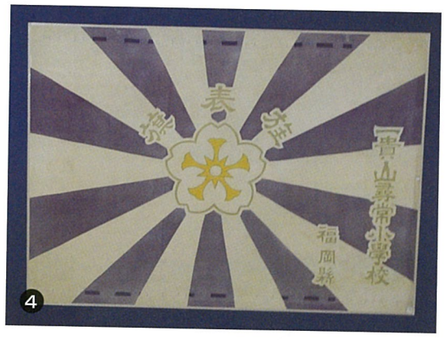
❶

写真①　平成16年（2004）アテネオリンピック「軽量級ダブルスカル」ボート競技に出場した浦和重選手（二丈町波呂出身、写真左）と武田大作選手。準決勝３位で決勝進出を決め、６位入賞を果たしました。（毎日新聞社提供）



❹

写真②　中央公民館で開かれた「第４回深江サマーコンサート」。演奏は、深江出身でニューヨーク在住のピアニスト宮地留美さんとデビット・パールさん夫妻です。夫妻によるピアノの連弾などすばらしい演奏が、約120人の聴衆を魅了しました。

❷

写真③　生涯学習の一環として、お年寄りから戦争体験を聴く子どもたち

❺

写真④⑤　一貴山小学校の旌表旗と賞状。明治時代に入ると、子どもたちの就学や教育に優れた成果を上げた学校を表彰する「旌表旗」制度が始まり、明治34年（1901）に福岡県で初めて一貴山小学校が表彰されました。

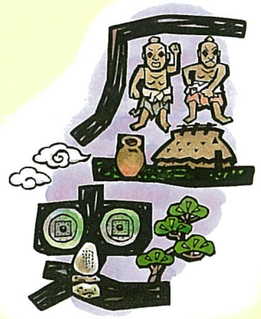
❸

年表

二〇〇三（平成一五）
県内初の「住民参画まちづくり条例」を制定
「二丈温泉きららの湯」が営業を開始する

二〇〇四（平成一六）
アテネ五輪ボート競技で浦（二丈町出身）武田組６位入賞
糸島１市２町合併協議会が解散する
とびうめ国文祭「きらら☆フェスタ」開催

町を知ろう！
【歴史】



二丈町は、卑弥呼の時代から外交の拠点として栄えていました。

二丈町を含む糸島地方には、２万年以上前の旧石器時代のものと思われる石器が発見されています。二丈町では、縄文時代の上深江小西遺跡や広田遺跡の住居跡などからたくさんの土器、石器が出土しています。

弥生時代に入ると、糸島地域はしだいに歴史の表舞台へと浮かび上がってきます。糸島は、中国の歴史書『魏志』倭人伝に記された伊都国に当たり、邪馬台国と肩を並べる勢力を誇っていました。深江井牟田遺跡からは、当時の中国と同じ技法で作られた土器や中国式の銅剣が見つかっています。曲り田遺跡からは弥生時代後期の青銅器を代表する広形銅矛の鋳型が出土し、伊都国の青銅器生産の重要な拠点だった可能性を示しました。伊都国の最も西の端の集落と考えられる吉井水付遺跡からは、権力の証である銅鏡のかけらや銅鋤先、朱を加工する石杵など、特殊な遺物が出土しています。

このような状況から、町内にあった拠点集落はいずれも交通の要所にあり、伊都国の対外交渉の窓口として重要な役割を果たしていたと考えられます。このような地域は、時代が下っても変わることなく重要視されました。

645年の大化の改新の翌年、全国の主な道に４里（約16キロメートル）ごとに駅を設置する駅制が始まり、糸島地方には佐尉、深江、比菩の３つの駅が置かれました。飛鳥、奈良、平安時代を通じ、官道（今の国道）の重要な中継地でした。この駅は、江戸時代に入り参勤交代が始まると、宿場という形に変わりましたが、明治４年（1871）に、日本で初めて鉄道が開通すると「駅」が再び登場します。

神護景雲２年（768年）に完成した怡土城は、唐（今の中国）をはじめとする東アジアの緊迫した情勢に対応するためのものでした。

16世紀末、天下を統一した豊臣秀吉は、朝鮮半島進出のため肥前名護屋（現在の佐賀県唐津市鎮西町）に向かう途中、深江で休憩し、木下家（西町）の井戸水や大田小浜の湧き水を使って茶会を催しました。木下家の井戸は今も残り、湧き水は「太閤水」と呼ばれています。

秀吉の死後、糸島地方は唐津領や中津領、対州（対馬）領あるいは幕領になるなど、明治の廃藩置県まで複雑に藩領が変わります。中でも、初代唐津藩主寺沢志摩守広高は、郷土の発展に尽くした人として語り継がれています。寺沢氏は、羅漢川を改修して水田被害を防ぎ、今日の美田の基礎を築いたのをはじめ、街道や海岸線に松を植林して塩害を防ぐなど、たくさんの業績を残しました。